

東京医療センター2024 年度専門研修プログラム
リウマチ膠原病内科サブスペシャリティープログラム

リウマチ膠原病内科の専門研修をお考えの皆様へ

●はじめに

2024 年度専門研修プログラム(当院基幹施設、リウマチ膠原病内科サブスペシャリティープログラム)の今年度の募集数は1名です。応募の締め切りは2023年8月10日となっており、応募希望者は事前に教育研修部あるいは当科へ連絡をお願いします。

●診療科の概要

当科は1980年に専門内科の一つとして開設されて以来、人口約140万人を有する東京都区西南部二次医療圏(目黒区、世田谷区、渋谷区)のリウマチ膠原病診療の基幹施設としての役割、国立病院機構の担う政策医療のうち免疫異常、骨・運動器疾患に関する医療の提供、教育研修、研究の役割、慶應義塾大学医学部内科学教室の教育研修施設としての役割などを担っています。

診療面では、リウマチ性疾患、膠原病、希少免疫炎症疾患など領域全般を対象としており、2022年度は外来通院患者数2,000名、入院患者数約149名の診療を行いました。特に関節リウマチや脊椎関節炎、全身性エリテマトーデス、血管炎等を対象とした生物学的製剤に代表される免疫分子標的薬による治療実績が豊富であることが特徴です。また、当科は地域の診療所や院内各科からの紹介される未診断例が多く、早期の的確な診断により臓器障害を進展させない治療の実践に繋がっています。

研究面では、機構のネットワークを通じた新規薬剤治験や臨床および基礎研究、薬剤市販後調査、当科独自の臨床データベースを用いた臨床研究など数多く実施しています。それらの成果は国内および国際学会での発表ならびに論文として報告しています。

教育研修面では、診療科内での個別指導、臨床カンファレンス、院内および機構による各種教育研修に加え、近隣の医療施設との研究会なども積極的に開催をしています。

●診療スタッフ

科長1名、医員1名、フェロー1名、専修医3名(1名は連携施設研修中)、非常勤医師2名、その他2名の合計10名(うち日本リウマチ学会リウマチ指導医6名、専門医7名)(2023年4月現在)

●専門研修プログラム名および全研修期間

リウマチ膠原病内科サブスペシャリティー、3年または4年
(うち、日本専門医機構の規定により連携施設での研修が1年間含まれます。)

●研修施設認定(リウマチ膠原病内科)

日本専門医機構リウマチ専門研修施設

日本リウマチ学会認定リウマチ教育施設

●研修期間のスケジュールの例

専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目			リウマチ膠原病内科					選択科		選択科		選択科
2年目		選択科		選択科		選択科			リウマチ膠原病内科			
3年目			連携施設研修						連携施設研修			
4年目	内科専門医試験受験											
5年目	膠原病・リウマチ内科専門医試験受験											

●週間スケジュール

リウマチ膠原病内科研修の例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝			病棟チーム回診		
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	初診外来
午後	病棟業務	臨床カンファレンス/ 抄読会/学会予演会	(再診外来) *	関節超音波外来	病棟業務 院内研修会

*再診外来は三年目以降に担当

●夜間、休日の当直業務

内科として当直業務を担います。上級医および救急科、麻酔科、放射線科、診療看護師など院内多職種によるバックアップ体制が充実しており安心して業務が行えるように努めています。当直の翌日は帰宅して休めるようにチームで業務調整がなされます。

●科長より

当科の専門研修プログラムに興味を持っていただきありがとうございます。本専門研修の責任者として本プログラムの特徴を紹介します。

専門研修期間をどのような環境で過ごすかは一人前の医師になる上で極めて重要です。本プログラムでは「専門医取得とともに将来のキャリアを見据えた基盤をしっかりと身につける」ことを修了時の目標としております。晴れて修了となった暁には一人前のリウマチ膠原病内科医として自信を持って活躍できるように指導を致します。

リウマチ膠原病内科が対象とする多くの疾患は全身に症状が出現することから、内科学全般並びに関連各科の幅広い知識が必要となります。当院は大規模な総合病院であり、内科各科、救急科が充実しており、選択することにより豊富な症例を経験できます。特に最初の2年間はリウマチ膠原病内科学とともに内科学および内科系救急医学を指導医のもとで多くの症例を経験し内科学の基礎固めを行います。専攻医3年目には、連携施設におい

て内科研修を行います。各科で学んできた診療を異なる環境で実践することにより、理解を深めることができるプログラムとなっています。連携施設には小規模病院から大学病院までさまざまな地域の病院が含まれております。

専修医4、5年目になると、当科において膠原病内科のチーフレジデントとして当科所属およびローテーター専攻医、初期研修医、学生等を束ねながら、日々の病棟診療の第一線で更に経験を積むとともに、専門外来の再診患者の診療を担当しながら外来における医学的管理を段階的に経験していきます。

当院では、動画教材を用いた身体所見の学習、PET-CT検査を始めとする核医学検査による精密診断、偏光顕微鏡による結晶観察やダーモスコープによる毛細血管の観察、病理組織診断やリハビリテーション分野の連携、地域における顔の見える病診連携など、積極的に新しい取り組みを行い、質の高いリウマチ膠原病診療の実践に努めています。関節を中心とした超音波検査においては、指導医のもと検査者として症例を経験し、日本リウマチ学会登録ソノグラファーの資格の取得も目指します。本プログラムは日本専門医機構の新専門医制度(基本領域 内科専門医、専門領域 膠原病・リウマチ内科専門医)の研修要件を満たし、4年目に内科専門医試験、5年目に膠原病・リウマチ内科専門医の受験資格が得られ、合格すると専門医資格を取得することができます。

研修修了後の進路としては、当科にてリウマチ膠原病の診療、教育研修、研究を行いスタッフとなる、あるいは他の国立病院機構施設、官公庁、病院、企業等へ就職する、慶應義塾大学等で専門研修、研究、海外留学をする、診療所を開業するなどの多彩なキャリアパスがあります。いずれの進路に進むにせよ、将来、リーダーとしての職責を果たせるように指導を行っています。

専攻医期間中の研究活動も盛んに行っています。日常臨床の実践の中で最新のエビデンスとなる文献の検索や精読を行うとともに、興味深い論文については科内の抄読会でディスカッションが行われ、医学論文の批判的吟味の経験を積むことから始めます。次に、自身が経験した症例を丹念にまとめ、過去の報告との相違点を明らかにする症例報告、日常臨床での疑問の解決のために当科の過去の症例を分析し仮説を構築する症例集積研究などの臨床研究へ展開していきます。研究活動を通じて、自らの臨床を振り返り、将来の診療に役立てていく手法を学んでいきます。

研究活動の成果は、日本内科学会、日本リウマチ学会の学術集会、地方会、さらには米国、欧州、アジア太平洋リウマチ学会等で発表が行われ、国内外の学術雑誌へ論文としての報告を行っています。2022年度に専攻医が筆頭著者となった学会発表が11件(共著者11件)、論文筆頭著者が10件(共著者10件)と精力的に行われました。研究テーマについては、最初は指導医が与えますが、その後は自らの興味に応じて自身で展開してけるように指導をしています。当科には多彩な専門性を持つ多数の指導医が所属しており、いつでも指導が受けられる体制となっています。

リウマチ膠原病は難解で捉え所がないと思われるかもしれませんが、近年の医学の進歩

により分子レベルでの理解が深まり、新薬が次々登場するなど発展が著しい内科の分野となっています。免疫系は自己免疫疾患のみならず、感染症、がん、精神神経疾患等とも密接に関連することが明らかになり、免疫機構の理解とその調節はあらゆる疾患制御の核となりつつあります。また、超高齢社会となり骨運動器系の機能維持が健康長寿に不可欠であることから、医療の需要が増してきています。さらに自己免疫疾患は女性の罹患率が高く、性差を考慮した医学にも近年注目が集まっています。

医学の進歩を実地医療で患者さんに届けるのが臨床医であり、臨床の醍醐味です。リウマチ膠原病の専門医数は需要に対して依然として少なく、「真に優れたリウマチ膠原病内科医」は常に求められています。医学の習得と医療の実践は決して容易な道のりではありません。思った通りに物事が進まないこともあると思います。時には多職種の同僚に助けられ、患者さんの一言に救われることもあるでしょう。経験豊富な指導医は医学や人間が万能でないことや患者さんが抱える悩みについて熟知しており、きっと適切なアドバイスを与えてくれるでしょう。我々専門職は生涯にわたり研鑽を積むことがプロフェッショナルとして期待されています。皆様が研修を終える頃には、苦楽をともにした同じ道を歩む同志として頼もしく成長している日が来ることを楽しみにしています。

以上当科および本プログラムの概要と特色について紹介しました。本プログラムの詳細について更にお知りになりたい方は教育研修部あるいは当科に遠慮なくお尋ねください。

●指導医より

当院のリウマチ膠原病科研修は主体性を持って診療に当たることが出来、希望があれば早期より外来(初診・再診)も担当をすることも出来ます。当科は全身に症状がでうため、他科との連携が重要ですが、当院は他科ともとても相談しやすい環境です。勉強会や学会も多く、モチベーションが高まります。平日は当直医制、休日は当番制のため、終業後はしっかりと自分の時間を持ち、メリハリのある生活を送ることができます。また福利厚生も充実しています。指導環境が整っており、興味があれば、研修医や専攻医でも国内の学会発表はもちろんのこと、英語論文執筆や国際学会での口頭発表の貴重な機会を得られ、非常に恵まれた環境です。当院に所属しながら、学位を取得することも可能です。またカンファレンスも非常に勉強となるものであり、当院での当科の研修はお勧めです。

●専攻医より

当院は各専門科が揃っている大きな総合病院であり、診断から寛解導入、維持療法まで完結できることが強みと感じます。総合内科が盛んなのもメリットの一つであり、初発の患者さんも多いかと思います。希望があれば、その他専門内科をローテートすることも可能であり、ジェネラルに学ぶこともできます。少しでも、当院での研修に興味を持っていただけると幸いです。

●リウマチ膠原病内科病棟診療チーム



内科ローテーター専攻医、初期研修医とともに病棟診療を行っています。

(文責 科長 鈴木勝也)